



神埼市立脊振中学校 学校だより

樹人舎 第17号

令和7年3月27日 校長 牟田美弥子

【学校教育目標】（脊振小中共通）

脊振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成

【校訓】 和気・立志・報恩

【令和6年度の目標】 **自律：気づき・考え・実行する**

☆卒業おめでとう！ 第78回卒業証書授与式 卒業生15名



最後の全校合唱 ♪旅立ちの日に「白い光の中に 山並みは萌えて」
懐かしい樹人舎とみなさんの思い出を包み込んだ脊振の山並みが、これからもみんなを癒し勇気づけてくれることでしょう！



【送辞】 抜群のリーダーシップを忘れません



【答辞】 共に過ごした仲間・後輩、家族・地域への感謝を込めて



【卒業生のご家族の皆様へ】

お子様のご卒業おめでとうございます。
中学校の3年間、ご家庭で子供たちを励まし、温かく背中を押して学校生活を支えていただいたことに、改めて感謝申し上げます。また脊振育友会での活動でも大変お世話になり、ありがとうございました。



【来賓の皆様】 卒業生の3年間の総仕上げの時間を温かく見守っていただき、心より感謝いたします。

【地域の皆様へ】 卒業生は、中学校に入学してからこれまで、地域の皆様にご世話になりました。お礼申し上げます。これからも地域の一員としてお世話になる子供たちです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

巻頭言

神崎市立脊振中学校
校長 牟田 美弥子

「樹人舎を輝かせたい！」（令和六年・生徒会活動）

校舎に名前がある学校は、全国でも珍しいのではないだろうか。脊振中の校舎は、「百年の計は人を樹うるにあり」との思いから、「樹人舎」と名付けられ、生徒玄関にかけられた立派な一枚板の扁額が、毎朝、生徒のみなさんを迎えてくれます。校長室にも、木製の「樹人舎」の札があります。旧校舎にかけられていたものかもしれません。

平成四年。建てられてまだ四年目の脊振中に勤務していたころのことです。五月の連休に職員室で仕事をしていると、見慣れない車が駐車場に入ってきました。「レストランか喫茶店だと思って入って来てしまいました。」

そう思われるほど素敵な校舎は、「脊振の学校を脊振の木で」という地域の方々の情熱のもと、脊振で育てられたスギやヒノキを使って、平成元年に建てられた木造の校舎です。旧校舎時代の先輩方のアルバムには、夏休み前に学校林に入り、木の下草はらいをしている写真が掲載されています。そうやって先輩方が手入れして育てた木も、その思いと一緒に、校舎のどこかに使われていることでしょう。樹人舎は、現在使わせていただいている私たちだけのものではなく、旧校舎時代の先輩や脊振の皆さんにとっても大切な財産なのです。

ランチルームの中央に据えられたシンボルツリーは、山頂付近から切り出した樹齢三百六十年といわれる大木です。江戸時代初期に芽生え、脊振山で風雪に耐えて育った杉の木です。私たちが声をそろえて歌う校歌を聴き、毎年、立志式の決意の言葉を聴いてくれます。みなさんも一度は手を広

げて触れ、その大きさと力強さを感じたことがあるでしょう。

今年度の樹人舎は、三年生の前向きな気持ちと行動力によって、大いに輝きました。

「脊振山頂でケイドロがしたい！」（新入生歓迎レク）

「どうしてもイルカショーが見たい！」（沖縄修学旅行）

「せふり保育園でお手伝いがしたい！」（地域貢献活動）

「自分が満足できる行書をしたためたい！」（全校書道）

「ラムネ飲み競争を企画したい！」（脊振わんぱく祭り）

「応援をかつこよくキメたい！」（脊振まるごと大運動会）

「三十一文字に思いを込めたい！」（秋桜忌・短歌の集い）

「シンデレラの劇を楽しんでもらいたい！」（文化発表会）

今年度は、コロナのため中断していた姉妹校・中国山西大学附属中学校との直接交流を、五年ぶりに再開する年になりました。交流までの詳細は、学校だより第七号をご覧ください。生徒のみなさんが年賀状や手紙を通して交流の系をつなぎ、全校生徒で交流の準備を進めてくれたおかげで、無事に附属中での交流会を再開することができました。生徒会長と副会長の中国語のあいさつを聞いて附属中の生徒たちから歓声が上がり、全校生徒が作ったうちわを手に両校の生徒が脊振音頭を踊った場面は、とても感動的でした。

今年初めて歌会始の儀に臨まれた愛子さまは、大学を卒業し新たな道を歩む友人と自分の将来に思いを馳せられました。

【我が友と ふたたび会はむ その日まで

追ひかけてゆく それぞれの夢】

樹人舎を輝かせようと生徒会活動の中心となって活躍してくれた三年生のみなさん、ありがとう。それぞれの夢の実現に向けてみなさんらしく前進されるよう、応援しています。

ご卒業おめでとうございます！